

大会名 Competition	第65回東北高等学校男女バスケットボール選手権大会 兼第46回NHK杯大会【男子決勝】
NO. M-2	Year Month Day Time 2010年6月27日 14:05
場所 Place	秋田市立体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA		チームB										
能代工	<table border="1"> <tr><td>17 1st</td><td>24</td></tr> <tr><td>10 2nd</td><td>20</td></tr> <tr><td>20 3rd</td><td>17</td></tr> <tr><td>23 4th</td><td>21</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	17 1st	24	10 2nd	20	20 3rd	17	23 4th	21	OT		明成
17 1st	24											
10 2nd	20											
20 3rd	17											
23 4th	21											
OT												
70 ●		82 ○										

主審:Referee
片寄達 (宮城)
副審:Umpire
久米克弥 (秋田)
テーブルオフィシャル:Table officials
聖霊女子高等学校バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4		熊坂兼		-	-	-	-	-	4		川東聖司		-	-	-	-	-
5	×	西島宏哉		0	0	0	0	2	5	×	山内大輔		0	0	0	0	0
6	×	笹木皓太	CAP	17	3	3	2	4	6	×	杉本健将		14	1	3	5	3
7		秋葉真司		-	-	-	-	-	7		蔦木大智		-	-	-	-	-
8	×	志水一希		10	0	5	0	2	8	/	門田瑠唯		1	0	0	1	2
9	/	中山祐樹		4	0	2	0	0	9	×	松澤大晃		6	0	1	4	1
10		熊谷慎也		-	-	-	-	-	10	×	安藤誓哉	CAP	26	4	5	4	2
11	×	田中浩喜		2	0	1	0	2	11	/	須川陽介		19	5	2	0	2
12	×	溝坂太成		13	2	2	3	2	12		千葉翔平		-	-	-	-	-
13	/	土屋真人		1	0	0	1	1	13		前田龍司		-	-	-	-	-
14	/	野里惇貴		13	1	4	2	0	14	×	木村聡		16	0	6	4	3
15	/	中村正也		8	0	3	2	5	15		森和史		-	-	-	-	-
16	/	伊藤健太		2	0	1	0	1	16		藤井祐希		-	-	-	-	-
17		金田海郷		-	-	-	-	-	17		岩田裕介		-	-	-	-	-
18		吉川雄磨		-	-	-	-	-	18		中村優斗		-	-	-	-	-
コーチ		佐藤信長							コーチ		佐藤久夫						
Aコーチ		安保敏明							Aコーチ		石川大地						
合計				70	6	21	10	19	合計				82	10	17	18	13

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第65回東北高校選手権男子決勝は、試合を重ねるごとに調子を上げながら順当に勝ち上がった能代工と明成という、東北地区のライバル対決となった。

序盤から両チームとも激しいマンツーマンディフェンスで相手にプレッシャーをかけるが、明成が巧みなコンビネーションプレイで先行する。開始1分で能代工0-6明成となったところで能代工はすかさずタイムアウトを請求、ディフェンスをハーフラインからの1-2-2プレスディフェンスに変更する。しかし明成は能代工のゾーンディフェンスにすぐさま対応、#14木村のゴール下での合わせや#10安藤、#6杉本の3Pでじわじわとリードを広げ、明成が7点のリードを奪って第1ピリオドを終える。

第2ピリオド、能代工は司令塔#8志水を中心に多彩なフォーメーションでシュートチャンスを作ろうとするが、明成の粘り強いディフェンスの前にシュート精度を欠いてしまう。一方の明成は途中出場の#11須川が2本の3Pを沈めるなど活躍、リバウンド争いでも優位に立ち、能代工27-44明成と更にリードを広げて前半を終了。

第3ピリオド、流れを変えたい能代工が仕掛けた1-3-1ゾーンディフェンスが功を奏し、試合の流れが能代工に傾く。明成が攻めあぐむ間に能代工は#6笹木の2本の3Pや#12溝坂のバスケットカウントで41-49と一気に追いつける。しかし明成も要所で#11須川、#10安藤が3Pを決めてリードを保ち、能代工47-61明成で第3ピリオドが終了。

第4ピリオド、能代工は激しいプレスディフェンスから流れをつかみ、#6笹木、#12溝坂の3Pで追い上げる。能代工はリバウンドやブロックショット等で活躍を見せていた#15中村が残り6分でファウルアウトするが、ルーキー#14野里が連続7得点するなど勢いは止まらず、残り3分を切ったところで68-69と1点差まで詰め寄る。しかしファウルがかさみ始めた能代工に対し、試合巧者の明成は確実にフリースローを決めて逆転を許さない。焦りの見える能代工は終盤オフェンスの精度を欠き、能代工70-82明成で試合終了。明成は2年ぶり2度目の優勝を飾った。

文責 【 系井 大輔 】